

令和3年12月17日

## 文化財保存活用地域計画の認定について

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和3年12月17日（金）に開催された同審議会文化財分科会において、11市町の文化財保存活用地域計画を認定することを文化庁長官に答申しました。これを受け、同日文化庁長官は同11市町の文化財保存活用地域計画を認定しました。

### ●令和3年12月17日に答申・認定した文化財保存活用地域計画

- ・ 湯沢市 （秋田県）
- ・ 白河市 （福島県）
- ・ 日立市 （茨城県）
- ・ 金沢市 （石川県）
- ・ 長浜市 （滋賀県）
- ・ 守山市 （滋賀県）
- ・ 明石市 （兵庫県）
- ・ 西宮市 （兵庫県）
- ・ 湯浅町 （和歌山県）
- ・ 松江市 （島根県）
- ・ 備前市 （岡山県）

今回の認定により認定件数は合計58件となった。

2021/12/25 05:30 神戸新聞NEXT

## 「文化財」をまちづくりの核に 明石市策定の活用計画、文化庁が認定 明石城周辺など重点区域



明石城を中心とする明石公園。城下町一帯が重点区域に設定された=明石市明石公園1

拡大

地域の文化財をまちづくりの核に位置付けて継承していこうと兵庫県明石市が策定した「市文化財保存活用地域計画」が文化庁の文化財審議会から認定された。国に文化財登録を提案できるほか、文化財の保存と活用に国の補助が受けやすくなる利点があるといい、商工・観光業との連携促進など新たな取り組みにつなげていく。(松本寿美子)

過疎や少子高齢化を背景に地方の文化財の消失が懸念される中、同計画に基づき保存活用を図ることで文化財を継承する体制づくりを進める狙いがある。

認定制度は2019年度からスタート。明石市の認定は17日付。全国で58市町が認定され、県内では神河町、加西市などに続き、西宮市とともに6番目。

明石市には国と県、市の指定・登録を合わせ、計66件の文化財がある。市は19年度から市民団体代表らも含めたメンバーで3年がかりで計画を作成。計画期間は22年度から9年間。

計画では基本方針として、食文化の把握調査と魅力発信▽歴史文化コーディネーターの育成▽見学ルートや解説板設置など文化財と周辺環境の整備▽市立文化博物館の拠点機能拡充—の四つを設定。

さらに明石城周辺の町並みや港の一帯を重点区域とし、歴史文化を生かしたまちづくりを優先的に進める。まず22年度から旧町名など歴史の歩みを伝える統一デザインの銘板・サインづくりに着手。地域から出品してもらった遺物を展示する場を設けて文化財的価値を与え、地元の誇りにつなげてもらう。

将来的には、明石港の市指定文化財「旧波門崎燈籠堂(はとさきとうろうどう)」などの史跡を海から楽しむ周遊ルートづくりや、仮想現実(VR)端末を使った太寺廃寺塔の復元などを検討していくという。

稲原昭嘉・市文化財担当課長は「地域の人に地元の良さに気付いてもらうことが一番の狙い。いずれ西部地域も含め、いろんな仕掛けで価値を『見える化』していきたい」と話す。

明石

## 協議会委員名簿

会長	村上	裕道	京都橘大学教授・文化財保全学
副会長	森本	眞一	神戸学院大学非常勤講師・地理学
委員	竹内	利江	神戸学院大学非常勤講師・地域学/観光学
委員	西海	英延	文化財所有者 住吉神社宮司
委員	藤本	庸文	明石市連合まちづくり協議会会長
委員	甲斐	昭光	兵庫県教育委員会文化財課長
委員	中塚	雅明	明石商工会議所事務局長
委員	檜原	一法	明石観光協会専務理事
委員	吉田	貴之	明石市政策局広報部長
オブザーバー	山下	史朗	兵庫県企画部参事

## 事務局

市民生活局	稲原	昭嘉
	山崎	智弘
明石観光協会	木村	公輔
政策局	藤田	幸子
都市局	谷口	祐二
教育委員会	小島	圭二

## 重点区域の取り組み案

1. 重点区域に関する副読本の作成
2. 明石市立文化博物館における講座の開催
3. ボランティアガイド等と共に巡るまち歩きの開催
4. 大蔵谷街道筋の建築物・民俗文化財の保存・公開
5. 明石城東ノ丸・薬研堀周辺の環境整備
6. VRを用いた太寺廃寺塔の復元
7. 城下に残る建造物の保存
8. まちの歴史を知る銘板・サイン等の設置
9. 海からの史跡めぐり周遊ルートづくりの検討
10. 明石歴史文化クリエイティブ事業の支援
11. 中崎公会堂の活用の推進
12. 織田家史料の展示・公開
13. オンライン配信等による歴史文化の情報発信
14. 明石市文化財保存活用協議会重点区域部会の組織化

## 重点区域部会構成員案

魚の棚商店街連合会長      中崎まちづくり協議会長      明石生船研究会長  
明石ヘリテージ代表      ボランティアガイド代表      天文科学館長

## 令和4年度の予定

5月17日      第1回協議会  
9月      第1回重点区域部会      今後の取り組み案の検討  
10月      第2回協議会      来年度の取り組み事業の検討  
11月      第2回重点区域部会      文化財ウォークの開催(11月20日)  
3月      第3回協議会  
周遊マップ作成(明石城跡～魚の棚～旧波門崎燈籠堂)

# 明石市文化財保存活用地域計画策定記念シンポジウム アンケート集計結果

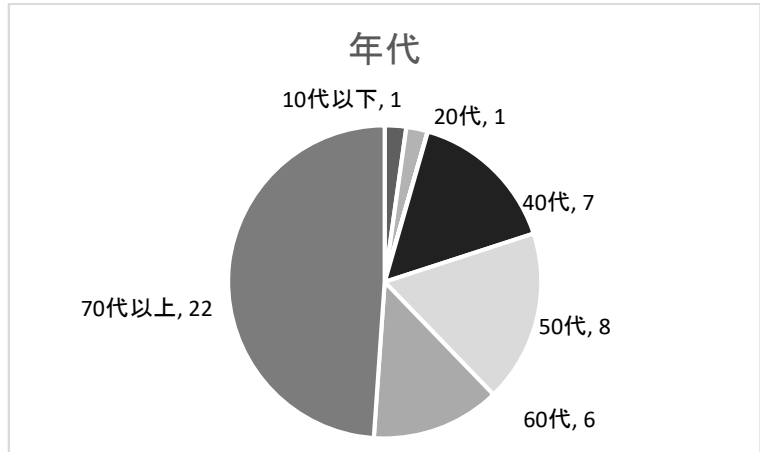
2022年（令和4年）3月20日（日）14：00～16：20

参加：47人

アンケート回収：45枚

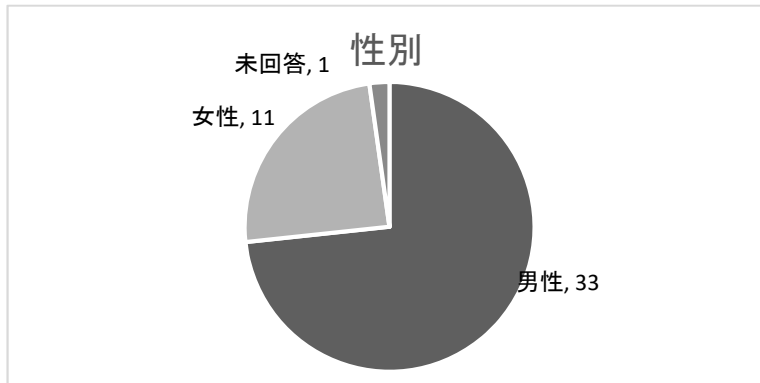
## 【年代】

10代以下	1
20代	1
30代	0
40代	7
50代	8
60代	6
70代以上	22



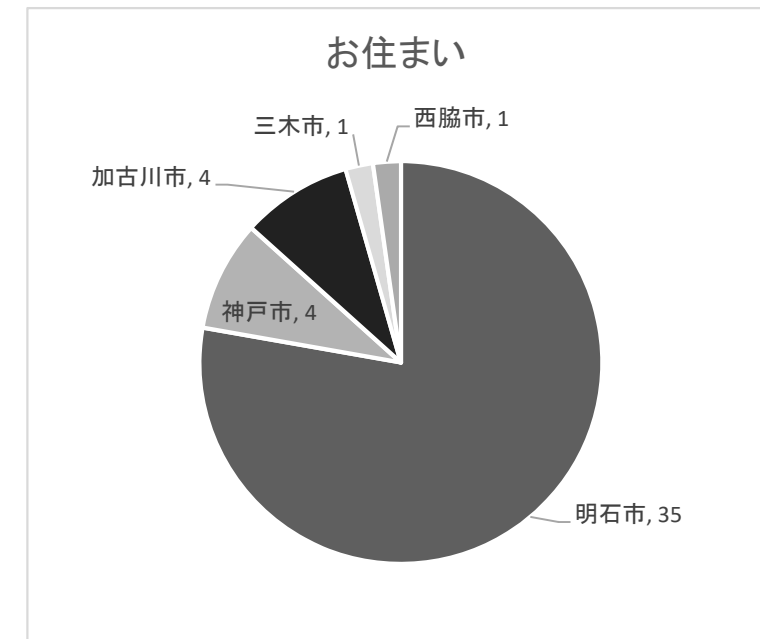
## 【性別】

男性	33
女性	11
未回答	1



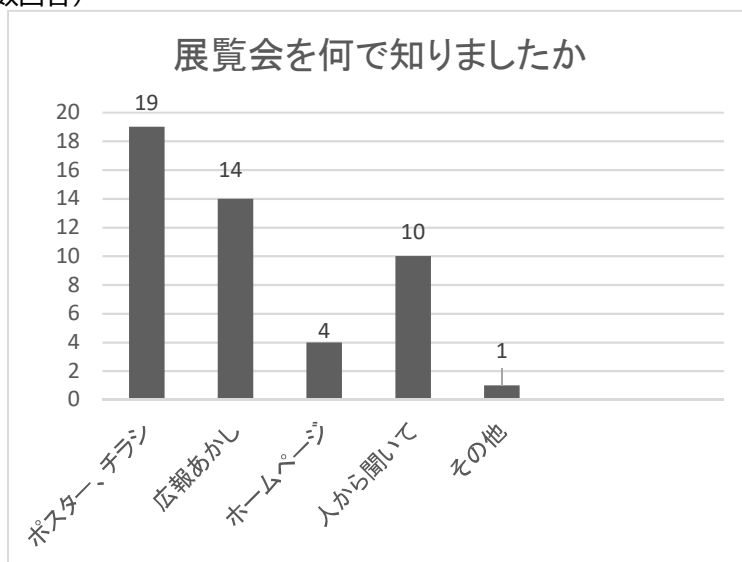
## 【お住まい】

明石市	35
神戸市	4
兵庫県	
加古川市	4
三木市	1
西脇市	1



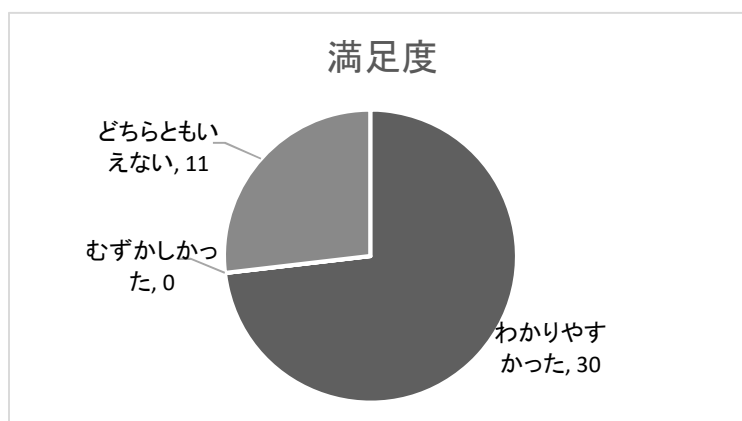
このシンポジウムを何で知りましたか（複数回答）

ポスター、チラシ	19
広報あかし	14
ホームページ	4
人から聞いて	10
その他	1



シンポジウムの内容

わかりやすかった	30
むずかしかった	0
どちらともいえない	11



## シンポジウム内容についての意見

### 【わかりやすかった】

村上先生の違った視点での説明がとても勉強になりました  
身近な問題で具体的な話でよかった  
資料を十分備えて下さっていたので理解が深まりました。欲を言えば、もう少し大きいと読みやすいが  
地域の文化財活用について、身近に考える必要性を感じた  
具体的な説明がよかった  
歴史文化遺産の観点からどうまちづくりに活かそうと考えているか理解できた

### 【どちらともいえない】

各メンバーの意見交換が少なかった  
話はわかりやすかったが、データの分析はむずかしかった  
難しい話もあったので、理解できないところもありましたが、食文化、祭りなど様々な視点でお話しして頂いたので勉強になりました。  
保存と活用の具体がわかりにくかったため

## シンポジウムで特に興味をもった内容

明石市民レベルでの文化意識が高いということがわかった  
明石の文化遺産を小・中学校の教科に取り入れておられる事  
祭りと新住民の関係をつなげる施策  
文化財と他部局とのかかわり方。また、いろいろな人が関わって実施していること。大変やと思います  
が、それを実施されてまとめられたこと、今後の勉強になりました。  
魚住地区の町づくり協議会の活動に興味があった。森本先生の話がわかりやすかった。  
ボランティアの顕彰制度  
文化遺産を保全するだけでなく、学校教育に取り入れたい、まちづくりに資する必要性がわかりました。  
官民一体、人材育成と活用  
明石市の主な文化財について知らないところもあったので、興味深く行ってみたいと思いました。  
市民参加について、子どもたちやシニア層の参加できるチャンスは多そうですが、その間の年齢層の市民に対してどのようにPRし参加を促すのか？という点も大切ではないかと思いました。  
明石市民のみ（通勤通学を含む）を対象とした、地元を知るFWを増やすことができればよいのではないかと思いました。（誰もが気軽に参加できるようなもの）

計画を作ったことはスタートである。今後、文化財の魅力を研ぎ澄ましていくには時間がかかる。市民と行政のパートナーシップにより、適宜見直しが必要。それができる市であることが分かりました。

### 学校地域における文化財の活用

小・中学生への文化財教育  
未来に先んじて必要な施策を講じる必要があるという意味が良く理解できた。  
多くの人が活動されていることに感謝すると共に一人一人が身近な歴史文化遺産を大切にしていきたい  
と思いました。

### 価値の変化、場の豊かさが暮らしの価値に

地域の文化財と行政と地域ボランティアの組み合わせを具体的に進めていただきたい  
文化財の活用に対する計画の重要性

全体を通して感じたことは、人づくりの重要性です。歴史文化遺産の保存・活用にはそれを担い、継続  
していく人をどう育成するか。教育は重要だと感じました。

教育による貢献です。授業をつくったり、イベントをしたり、まだまだ新しいことができると感じました。  
教育における文化財の活用について興味があります。未来を担う子供たちにいかにして学ばせるか、歴史  
文化遺産の保存も含めて多くの課題があると感じています。

明石の町のすばらしさ（文化財だけでなく人材等も含め）を改めて感じる事が出来た

明石市の文化の保存とこれからの活用指針の熱意を感じさせていただきました

若い世代が「長い歴史と伝統」に興味をもっているという調査結果

村上先生による計画の意義を考えようという内容について。歴史文化は文化財だけでなく、身近な大切にしたいものを含むということでしたが、残すことにどんな価値があり、どう活かすかをさらに深く考え、実践していくことが必要だと感じました。

## 自由記入

このような計画ができたことは大変意義があるが、市民へのPRをもっと積極的にしてほしい  
大久保駅の北側に気になる石造りの建造物があり、「明治天皇」とゆかりがある旨の石碑があるのですが、地元の方に尋ねると、その石造建造物とは関係ないと言われます。大分くちて来て危ない建物ですが、文化財？ 文化財保存活用（本日配布）の参39にも出ておりますが、どういういわれのある建物でしょうか??? 永く地区に住みますがよくわかりません。大久保まちづくりでも取り上げられるのでしょうか？

明石城（明石公園）との連携をより深めてほしい

明石の産業遺産としての「明石型生船」「焼玉エンジン」を登録してほしい

本計画を元に進めた調査や事業について、このような取組について発表して頂きたいです。市民の皆様との一緒に取り組みについてもっとお聞きしたいです。

あかね学園で魚住地区の町歩きをしながら景観マップを作成していきたいと思います。

市内の文化財関係のグループの横のつながりの連絡会の設置（支援団体の設置の促進）

織田家長屋門及び付属塀をきちんと整備をし、中に入ることができるようにしてほしいです。

「文化財の産業化について、福祉抜きに成り立たない。」市の交通バリアフリー基本構想に練りこまれてはどうか…簡単には進まないと思いますが、ご一考ください。

市内の文化財の市民へのPRのために、文化財見学の機会を増やし、市民全体がPRできるような機会を多く作ってほしい

今日参加されていない人達のアピール方法を考えてほしい。皆さんで共有したい。

今後、いくつかの個別の文化財について、紹介、発表する場などあったらいいと思いました。

文化財が少ないのは、江戸時代明石藩領が明石市・神戸市（西区・垂水区）にわかれて系統だって調べられていない

もうちょっと地域計画の冊子の中身について解説いただきたかった

シンポジウム終了後、保存活用地域計画事業に向けての協議会の設立（体制づくり）を早く知りたい。そして、「住民・行政・専門家・団体」の知る。

小中学生がそれぞれの校区内で文化遺産について学ぶことができるようにしたいと考えています。効率化よりも地域性重視ですすめたいです。本日は大変参考になりました。ありがとうございました。

VRの活用と保存を併用して取り組みができればと思います

これから進んでいく地域計画の進み具合なども知らせる講演会があるとぜひ参加したい

学校関係の学習や歴史・文化財を守り継承するための人材育成等は理解できたが、それだけの利活用では持続可能なものになるかは不明で、どのような利用でできるのか具体的に聞きたかった

これからの若い世代、子どもたちにも明石の魅力が伝わるようにして頂きたいです

有形文化財に住んでおり、税金、補助金等の古民家を維持するための優遇措置について今後の計画を教えてください